

「増進型地域福祉づくり」に関するアンケート調査

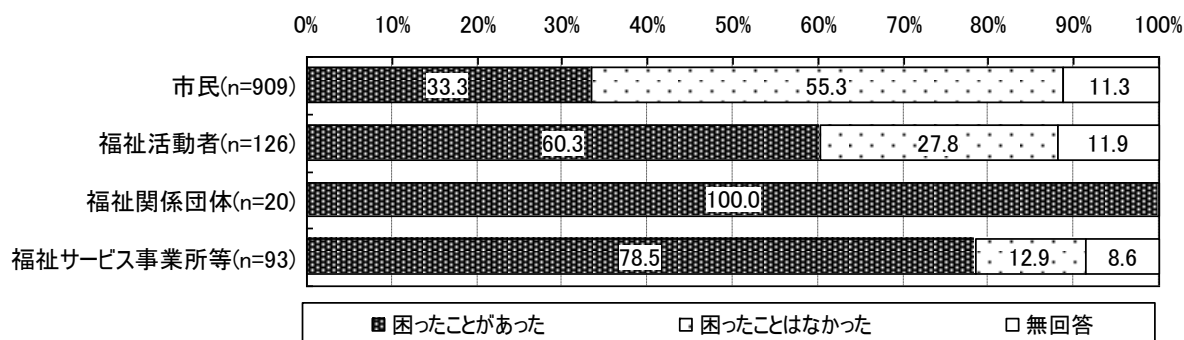
■共通設問の主な結果

※令和3(2021)年5月28日から6月30日にかけて郵送法により実施（礼状兼催告1回）

調査	調査対象	配布数	回収数	回収率
市民	18歳以上の市民（無作為抽出）	2,000	909	45.5% （前回 54.5%）
福祉活動者	市内で地域福祉活動を行っている人	150	126	84.0% （前回 72.1%）
福祉関係団体	市内で福祉活動に取り組んでいる団体	30	20	66.6% （前回 63.7%）
福祉サービス事業所等	市内をサービス提供区域としているサービス事業所等	120	93	77.5% （前回 63.7%）

※アンケート調査結果の各設問の母数n(Number of caseの略)は、設問に対する有効回答者数を意味します。
 ※各選択肢の構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入しています。このため、択一式の回答については構成比の合計が100%にならない場合があります。また、複数回答が可能な設問の場合、選択肢の構成比の合計が100%を超える場合があります。
 ※グラフ中の数字は、特に断り書きのない限りすべて構成比を意味し、単位は%です。

◆このたびの新型コロナウイルス感染症の感染拡大にあたって、（福祉活動を行う上で）何か困ったことなどがありましたか。（〇は1つ）



・「困ったことがあった」という回答は、福祉関係団体の全団体、福祉サービス事業所等の78.5%、福祉活動者の60.3%、市民の33.0%となっています。

◆新型コロナウイルス感染症の感染拡大にあたって、どのようなことに困りましたか。また、それに対してどのような対策をとられましたか。自由にご記入ください。

※主な自由記述内容

【市民】

- ・授業がほぼオンラインになることで、友だちとも会うことができず、気分が落ち込んだり不安になったりすることが多くなった。将来について不安になることも多い。
- ・就職が困難になり収入がなくなったため、小口資金を借りた。
- ・家庭の収入が減ったが、感染症対策などの費用が増えた。またアルバイトのシフトにもあまり入れなくなり、先行きがとても不安。
- ・外出を控えるようになったので、友人との交流がまったくなくなった。SNSでは交流しているが、実際に会って話す機会がなくなり残念。親族とも会える機会がなくなった。
- ・出産の前の母親学級や、他のママさんたちとのふれあいがなく、これからの育児に少し不安があった。保健師さん等に聞いたり、インターネットから情報を入手した。
- ・外出する機会が減り、子どもがゲームや動画ばかり見るようになった。ストレスが溜まりやすくなった。
- ・施設に入居中の親との面会が1年以上できず、リモートでの対応になり、直接会えないので刺激が減り、認知が進んだりしないか心配。遠方にいる孫とも会う機会がなくなり、生活面での張りや楽しみがなくなった。
- ・家族が、コロナ感染を恐れてほとんど家から外出しなくなり、体力が落ち、歩行も少し困難になりつつあります。ワクチン接種が進み、外出でき体力を回復してくれることを望みます。
- ・緊急事態宣言下で感染対策をしっかりとと言われても、外出自粛、手洗い、マスク以外に何をすべきか。病院の確保と具体的な感染対策、情報の提供が必要。
- ・市内の感染状況を日々チェックし、不安を少しでも和らげるよう努力していたが、クラスター発生情報はなかなか得ることができず、正確な情報を知りたいと思った。

【福祉活動者】

- ・コロナウイルス感染について、高齢者は特に恐れをなし外出を控え、人との接触を避けるため、認知症が進んだり、筋肉の低下が進み衰えていっているように思われます。
- ・ひとり暮らしの人の安否確認において、顔を会わせて話をしながら様子を伺うことができなかった。インターホンや電話での確認で行っているが、やはり不十分でもどかしさを感じる。
- ・地域活動が停止となり、1年以上安否確認や交流ができなくなった。ただ、停止というだけでなく、このようにすれば良いというアイデアが社会福祉協議会からほしかった。
- ・いきいきサロンや世代間交流の行事の中止により、情報収集の機会が減少した。マスク配布などの個別訪問をしたり、感染拡大状況を見ながらの密を避けての顔合わせ（お弁当配布）を行った。
- ・具体的な活動の指導がない。感染症対策で何もかも中止するのではなく、積極的にする行動を提起すべきだと思います。

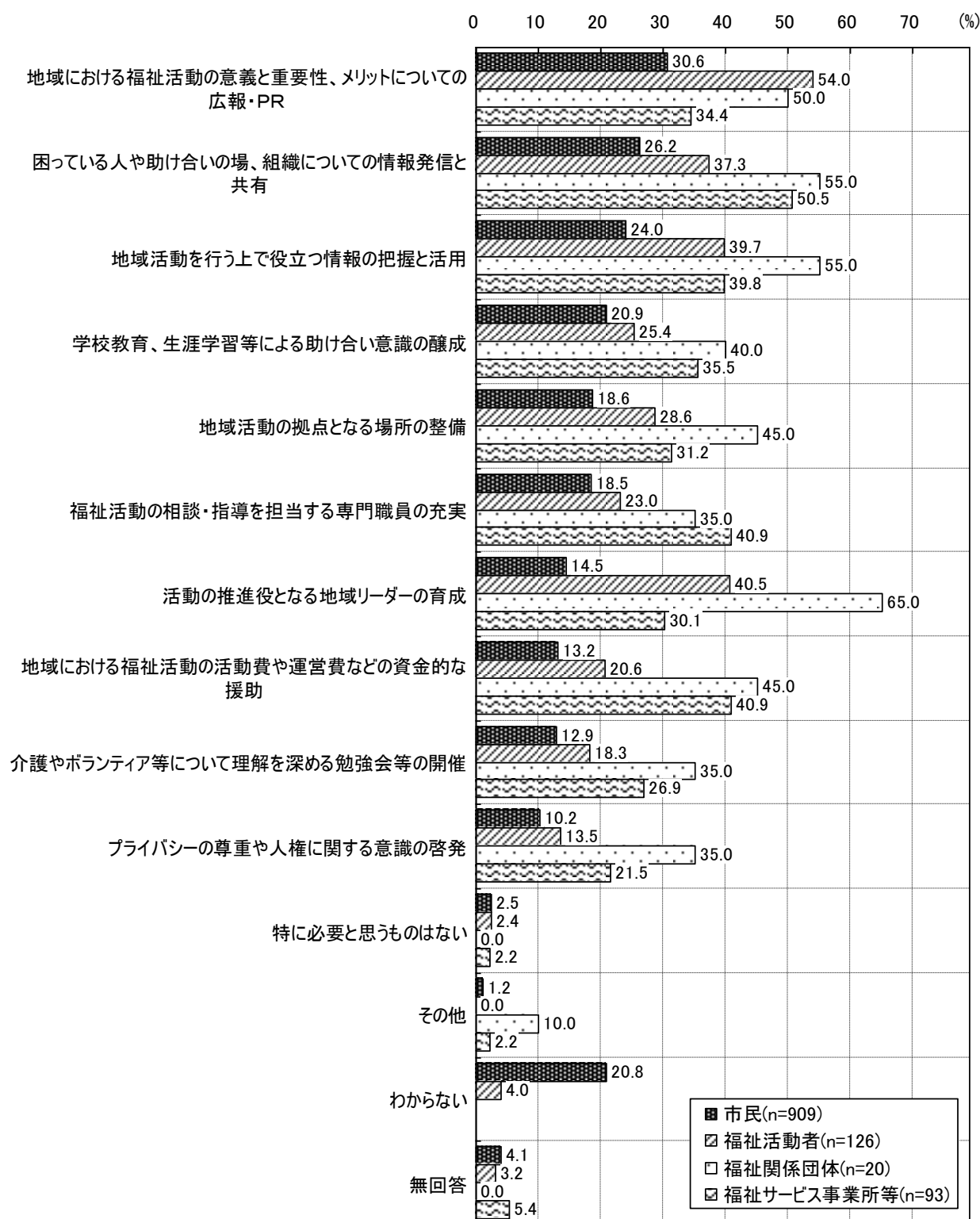
【福祉関係団体】

- ・施設等への訪問、面会が一切できなくなった。職員等からのヒアリングで一定の情報は得ているが、十分ではない。
- ・集える場がなくなった。こちらから個々の所へ出向く。
- ・講座が休講となり、思うような活動ができなかった。代替講座を行うことで講師、教室の確保に振り回されている。適切な対策は休講分の返金や代替講座によって凌いでいる。
- ・施設が休館になり、つどいの広場を開催できなくなった。オンラインを活用し、おしゃべり会やインスタライブなどを行った。
- ・人に接する奉仕活動が一切できなかった。

【福祉サービス事業所等】

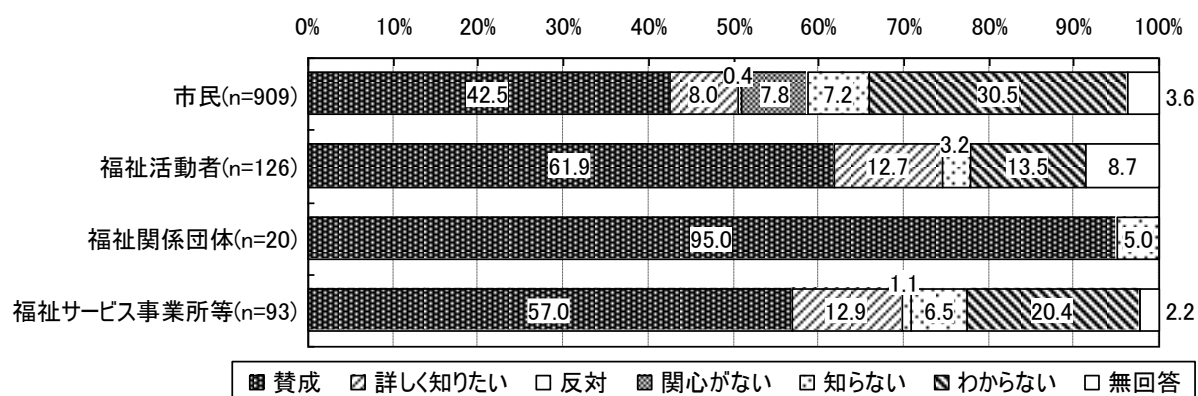
- ・高齢者が閉じこもり、人との交流が減少したことで、身体・認知面が低下し、介護保険申請に至る人が増えた。
- ・陽性者が出たことで休業を余儀なくされた。
- ・従業員が濃厚接触者になると、たちまち業務が止まってしまった。売上減、人件費増で金銭的に困りかけましたが、助成金で救われました。
- ・施設内、近隣でコロナ陽性者、濃厚接触者が出た場合の事業の継続や運営について、どう対応していいか悩んだ。保健所に連絡したが、事業所判断との回答で、事業所内で感染症対策会議を開き方針を決定した。
- ・行事の中止、延期、規模の縮小を余儀なくされた。事業所内でのイベントに変更。
- ・施設等への訪問ができなくなり、リモート等で対応した。
- ・福祉施設におけるコロナ発生情報や感染状況について、施設により対応面のばらつきがあり、真実がわからないため、市が取りまとめて情報発信をしてもらいたい。
- ・コロナ禍で感染対策を講じながら活動するための具体的な指針を示してほしい。

◆地域における助け合いや支え合いの活動を活発にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



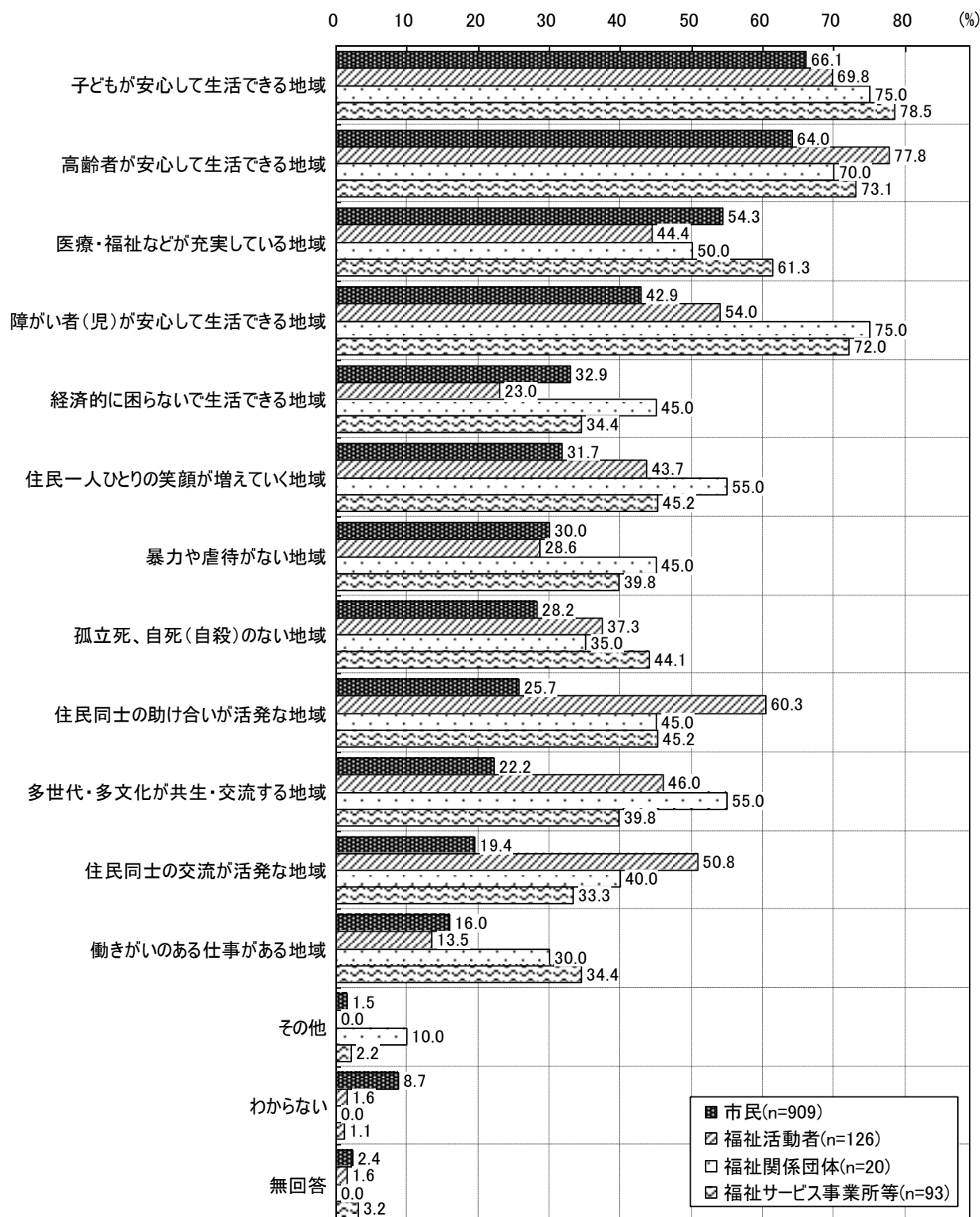
- ・各調査とも「地域における福祉活動の意義と重要性、メリットについての広報・PR」、「困っている人や助け合いの場、組織についての情報発信と共有」、「地域活動を行う上で役立つ情報の把握と活用」、「活動の推進役となる地域リーダーの育成」などが上位にあります。

◆お住まいの地域において、「増進型地域福祉」の地域づくりを進めることについて、どのように思われますか。(一番お考えに近いものを選んで、1つだけ○をつけてください)



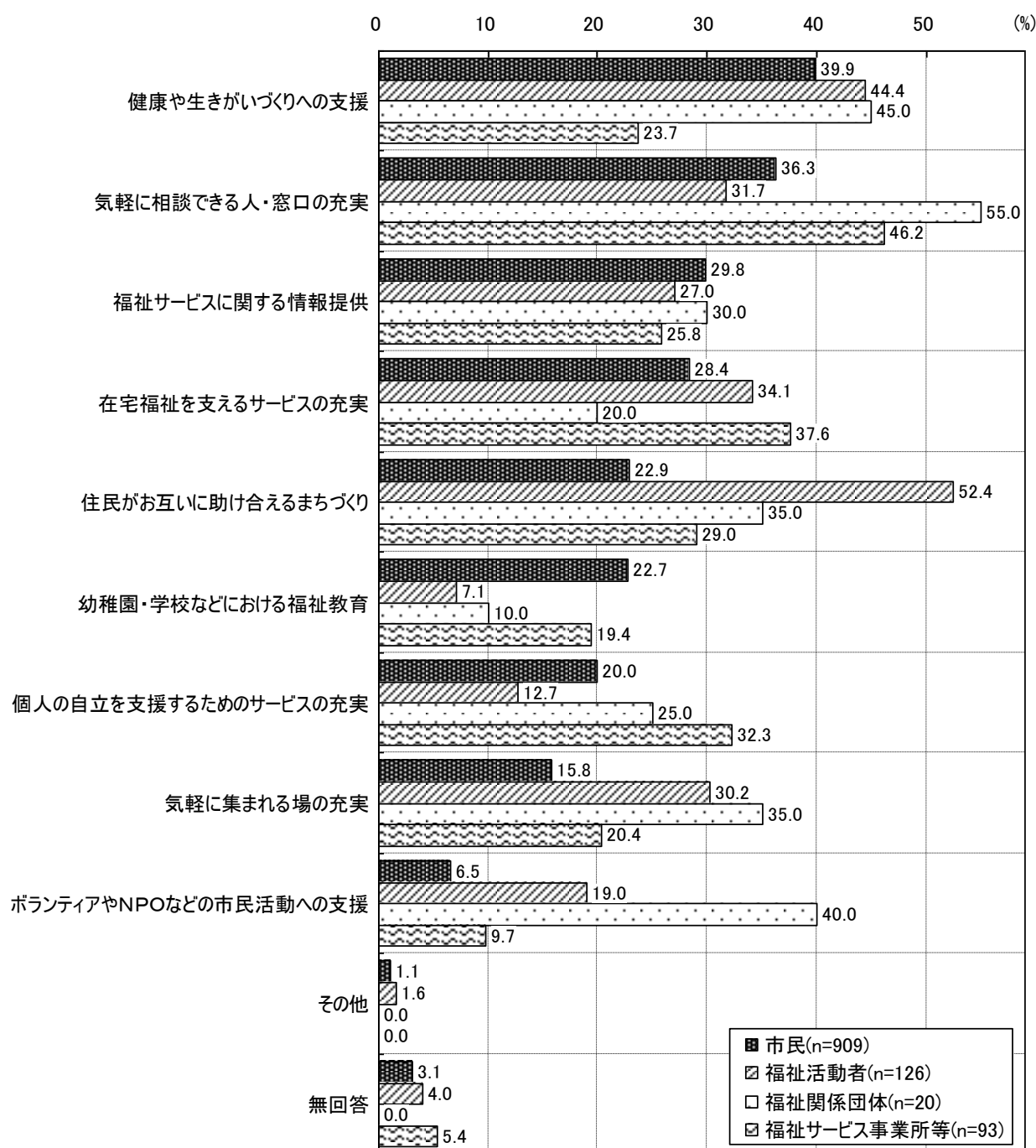
・「増進型地域福祉」の地域づくりを進めることに「賛成」という回答は、福祉関係団体の95.0%、福祉活動者の61.9%、福祉サービス事業所等の57.0%、市民の42.5%となっています。

◆「増進型地域福祉」の地域づくりを進めることにより、どのような地域になっていけばいいと思いますか。(〇はいくつでも)



・各調査とも「子どもが安心して生活できる地域」、「高齢者が安心して生活できる地域」、「医療・福祉などが充実している地域」、「障がい者(児)が安心して生活できる地域」が上位を占めています。

◆これからの富田林市の福祉は何を重点にすべきと思いますか。(〇は3つまで)



- ・市民では、「健康や生きがいづくりへの支援」(39.9%)、「気軽に相談できる人・窓口の充実」(36.3%)、「福祉サービスに関する情報提供」(29.8%)、「在宅福祉を支えるサービスの充実」(28.4%)の順で多く見られます。
- ・福祉活動者では「住民がお互いに助け合えるまちづくり」(52.4%)、福祉関係団体と福祉サービス事業所等では「気軽に相談できる人・窓口の充実」(55.0%、46.2%)が最も多くなっています。

◆最後に、地域における福祉活動の推進や暮らしやすい地域づくりに向けたご意見などがありましたら、自由にご記入ください。

※主な自由記述内容

【市民】

- ・ いったい何をされているのか、情報を市民に知らせる必要があると思います。
- ・ 福祉サービスは自分から申請しにいかないと利用までたどり着けないものが多いと思います。今はサービスと無縁な人であっても、必要な時に必要な支援サービスにたどり着けるよう、わかりやすい案内（情報提供）があればと思います。
- ・ どのようなことを行っているのか、文面では伝わりづらいと思うので、若者に伝えたいなら動画発信、高齢者に伝えたいなら、画像付きのわかりやすい紙媒体の活用が最適だと考えられます。
- ・ 現在、地域の様々な福祉活動に携わってくださっている方々に感謝いたしておりますが、その方々の高齢化も案じるところです。もっと若い人たちにも地域のために力を発揮していただけるような組織の育成が必要だと思います。
- ・ まずは自分自身が福祉活動について学ぶところから始め、もっと興味を持ち、できる限りの行動をとれるようにしたい。その助けとなる施設、機会の充実を市に望みたい。
- ・ 子どもたちが安全に安心して過ごせる場所の充実。
- ・ 独居老人や認知症の方がもっと社会交流できる対策を検討してほしい。
- ・ 暮らしやすい地域づくりには移動販売車等の充実が必要だと思います。あるいは、買い物または家事の代行サービス等でもいいと思います。
- ・ 安心・安全に過ごすためには、環境を整えることも重要だと思います。子どもの通学路の土砂崩れ後の整備など、もっと早く行ってほしいです。

【福祉活動者】

- ・ 地域福祉や交流に関心の少ない住民が多い。
- ・ 活動していることをほとんどの人は知らない。無関心なのが残念です。懸命にしている方や、活動をもっと知って理解してもらえればうれしいです。
- ・ 地域の人たちだけの活動ではなく、やはり専門的な知識を持った行政や社協との連携が必要であると思う。いろんな情報を地域に広げて発信していただきたい。
- ・ 広報や情報誌だけでなく、行政や社会福祉協議会の方による今以上の働きかけが必要に思います。
- ・ 地域では認知症の高齢者が増加し、家族による在宅介護が困難で、施設への入所が増加し、淋しく感じております。高齢者の見守り訪問を継続し、認知症等の早期発見したり、CSWなどへの支援依頼につなげていきたい。
- ・ 個人情報の取り扱いが難しく、地域の中で支援を必要とする人の発見が遅れることも多く、活動の難しさを感じています。
- ・ 活動支援者が高齢化し、なかなか後継者を探すのに苦労している。
- ・ 幼、小・中学校と協力し、地域の子どもの見守りや、高齢者のために子どもも一緒にできることがないか、考えてみたいと思っている。

- ・住民がいつでも自由に出入りできて、災害時には避難所にもなるような施設がほしい。
- ・市民に寄りそった活動で「福祉なんでも相談窓口」の設置はいい試みです。
- ・第3期の地域福祉活動計画に対し、必要な重点項目を次回の計画で見直し、人員と予算を有効に活用する施策をお願いしたい。

【福祉関係団体】

- ・地域との連携もどんどん取りづらくなってきているように思います。みんなが安心して暮らせるようにするには、若者との地域連携が重要になると思います。働くお母さん、お父さんの子育て、教育のお手伝いを民間で支援できる場を作っていきたいです。
- ・それぞれの立場の人がお互いに助け合える地域。若いリーダーを育成し、自助グループを行政が支援、協力し、ネットワークで地域の福祉活動を活性化していくのも良い方法だと思う。
- ・困った時に手伝ってと言える関係性をどうやって築いていけるのか。小さな困りごとでも対応してくれたという経験の積み重ねを、子どもも大人もできたら、互いに支えあう、または支援の輪ができるように思います。
- ・震災などで公共サービスが途絶えた時、「ひとりで生きる」ことの脆さが露わになります。そんな時、結局役に立ったのは近所の支え合う力、すなわち地域のコミュニティの力です。多少の煩わしさはあるとしても、地域の中で人とつながりながら暮らす方が実は得になります。地域の様々な人材が参画する各種団体も地域コミュニティの活性化をめざして様々な連携が望まれます。
- ・地域活動の拠点となる場所の整備を望む。誰もが集まりやすい環境づくり。

【福祉サービス事業所等】

- ・コロナ禍で閉じこもりによる心身状態の悪化や経済的な問題を抱えていたり、8050問題も増えている。解決に向けてかなり時間を要し、一人の相談員だけでは負担が大きい。様々な職種が主体的に関わっていける関係を構築したい。
- ・男性の独居高齢者が孤独感を募らせている。趣味を生かせる場がないので、情報が共有できれば良い。
- ・相談機関が主導する地域づくりはマンパワー不足などもあり限界がある。地域住民が主体的に参加してもらわないと継続できないと思う。
- ・定期的に協議会をしていただき、事業所と事業所がもっと情報交換できればいいと思う。職種間での連携や情報の共有、非常時のセーフティネット。こういう所があるよ！ともっとPRするといいとも思います。
- ・発生する福祉的な課題を家族内で解決する力が低下していると感じます。複合的な問題となっていることも多く、各専門機関へのつなぎの段階への支援、相談機関によるアウトリーチが重要であると思います。互助力をあげるための地道な取り組みが必要です。
- ・顔の見える関係づくりや、スムーズな連携ができたとしても、それを支える場所（人）をサポートするには必ずお金も必要になってきます。自助、共助を最大限に活用するには、公助がなければ始まらないと考えています。